

東北紀行(その4) 女川港と鮎川港

池田良穂

宮城県の牡鹿半島の北側の付根に位置するのが女川(おながわ)です。東日本大震災後、初めての訪問でしたが、津波で流された港周辺は再整備が進んでいますが、住宅は高台に移っており、女川の町の様子はすっかり変わっていました。ここの港からは、出島(いずしま: 島内2港寄港)と江島(えのしま)へ、シーパル女川汽船の「しまなぎ」がでています。出島には架橋工事が進んでおり、2年後には完成するので、人口40名あまりの江島だけになると、この航路も姿を変えるかもしれません。

また、女川からは金華山には、潮プランニングの2隻の19総トン型高速船「アルティア」と「ベガ」の2隻が就航していますが、日曜だけの定期便です。

牡鹿半島の先端に位置する鮎川は、昔から捕鯨で栄えた町です。今回が初めての訪問なので、津波前後の町や港の変貌はわかりませんが、港の岸壁の建設工事が行われている状態で、かなりの被害を受けて再建中であることがわかりました。港の正面には津波対策の小高い丘が作られ、その上にホエールタウンという、クジラに関する展示館、牡鹿半島のビジターセンター、レストラン、お土産屋の入った施設が作られていました。

鮎川の港からは、網地島、田代島経由で石巻を結ぶ網地島ラインの便の他、金華山には金華山航路事業組合が日曜日に定期便がでています。訪問したのが平日だったため、2隻の高速船は港につながれていました。さらに小型の海上タクシーも数隻つながれていました。

金華山航路は、女川、鮎川からの両航路ともに日曜のみの運航で、島民は困るのではないかと心配になりますが、インターネットで調べてみると、住民票をおいている人は5人で、全員が黄金山神社の職員だけという信仰の島であることがわかりました。必要な時には海上タクシーを使うという「オン・デマンド」の形態が定着し、参拝客が多い日曜だけ定期便を運航するというスタイルになっているようです。

女川港



女川の旅客船ターミナル。



シーパル女川汽船が、女川と出島・江島航路に投入する「しまなぎ」。62総トンで、航海速力21ノット。女川と江島の航海時間は、直行便で30分。出島へは20～35分。1日3便運航されています。



「しまなぎ」



「しまなぎ」と「べが」



金華山航路に就航する潮プランニングの「アルティア」と海上タクシー。



「アルティア」。19 総トンで航海速度は 27 ノット。



潮プランニングの「べが」。訪問した当日は、ドック入りしていた「しまなぎ」の代船として、出島、江島航路に就航していました。19 総トンで、航海速度 34 ノットの高速船です。



海上タクシー「Deneb-α」

鮎川港



港を見下ろす防潮堤の上に立つ「ホエールタウン」。



保存・展示されているキャッチャーボート。まわりはまだ震災からの復興工事が進んでいました。



ホエールタウンの内部



ホエールタウン内の網地島ラインのチケット販売所です。



ホエールタウン内の金華山行きの切符売り場。



金華山航路事業組合が運航する高速船「ホエール」。毎週日曜日だけの運航です。



金華山航路事業組合が運航する高速船「ドリーム」。毎週日曜日だけの運航です。



海上タクシー「くろしお3号」



海上タクシー「Sea Dream5」